

第2部 アンケート調査による研究

1 不登校

調査時、不登校を主訴として相談に来ている307ケースについて、以下に述べる。

(1) 学校との関係の有無

保護者が学校との関係を持っているのは、9割程度である(図2)。学校との関係を必要と考える相談者が多いことがうかがえる。

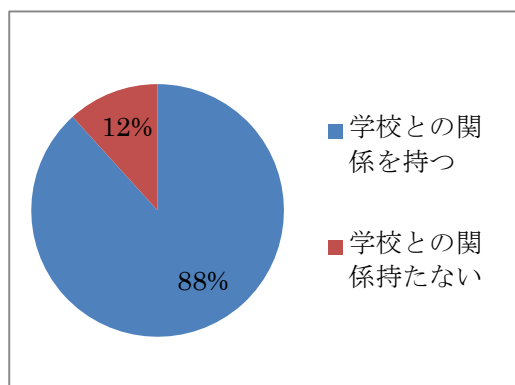


図2 学校との関係の有無

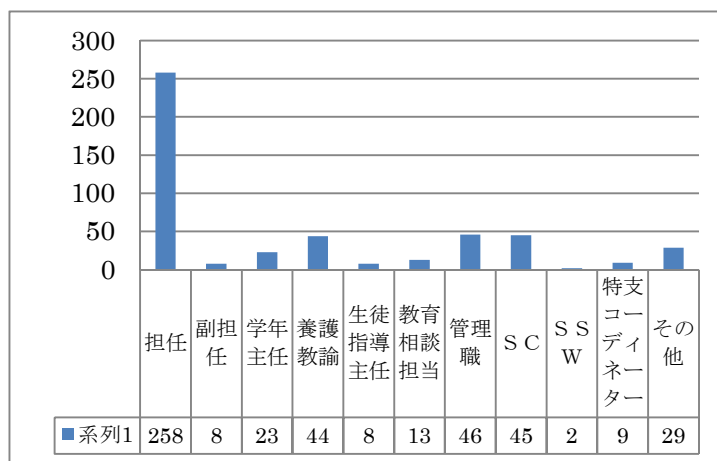


図3 不登校時に学校でかかわった人

※SC：スクールカウンセラー

SSW：スクールソーシャルワーカー

学校でかかわっている人は、担任が最も多く、その他にも、管理職、養護教諭、スクールカウンセラー(SC)、学年主任など様々な人がかかわっている(図3)。また、不登校の背景が複雑になってきて、多くの教職員がチームを組んで対応する必要が生じてきたからなのかもしれない。

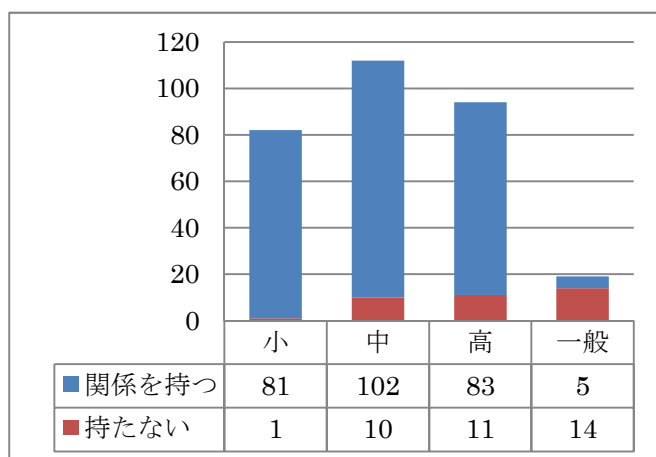


図4 学校との関係の有無(校種別)

多くの保護者が学校との関係を持っている中、持っていないケースが1割程度あることは注目すべき点である。校種別に見ていくと、小学校でほとんどのケースが学校との関係を持っているのに対し、学校種が上がっていくに連れて、関係を持たないケースが増えてくる(図4)。

(2) 不登校経験の有無

約6割に及ぶケースが、過去にも不登校の経験がある(図5)。

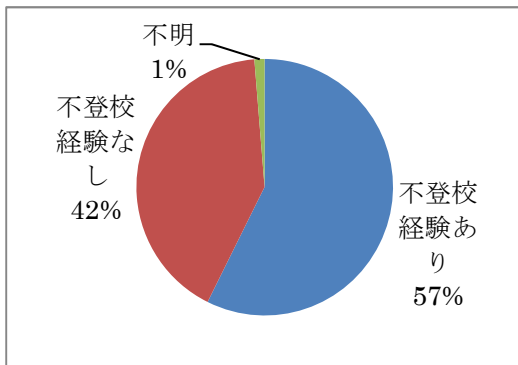


図5 不登校経験の有無

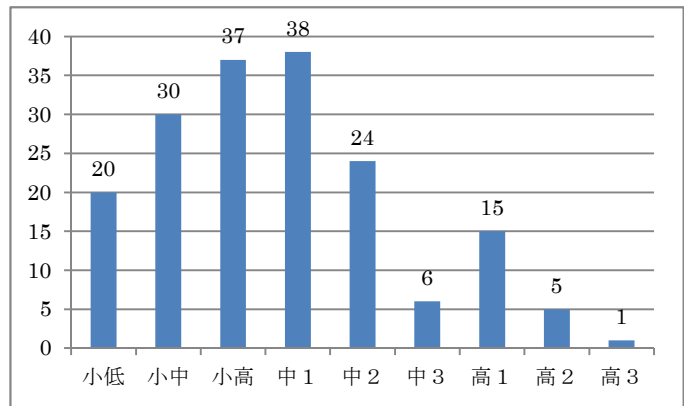


図6 不登校が始まった時期

不登校が始まった時期は、小学校中・高学年，中学校1年生が多く見られる(図6)。特に思春期の入り口にあたる小学校高学年と中学校1年が多い。

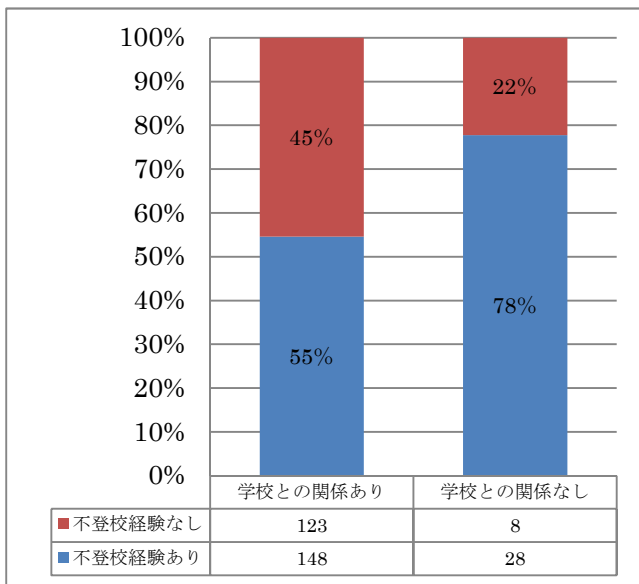


図7 不登校経験と学校との関係の有無

次に、不登校経験と保護者が学校との関係を持っているかの関連を調べた(図7)。学校との関係が「なし」のケースにおいては、78%が過去にも不登校経験があるのは、注目すべき点である。

(3) 当センターに来所する以前の他機関での相談歴

当センターに来所する以前の、他機関での相談歴があるケースは、約5割ある(図8)。

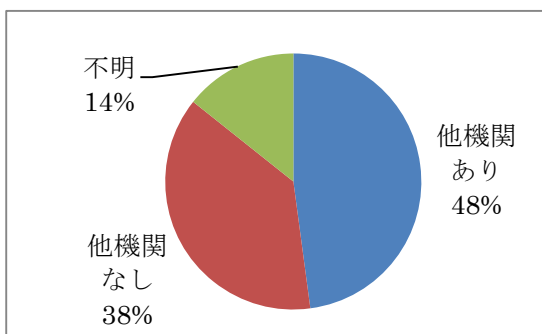


図8 他機関での相談歴

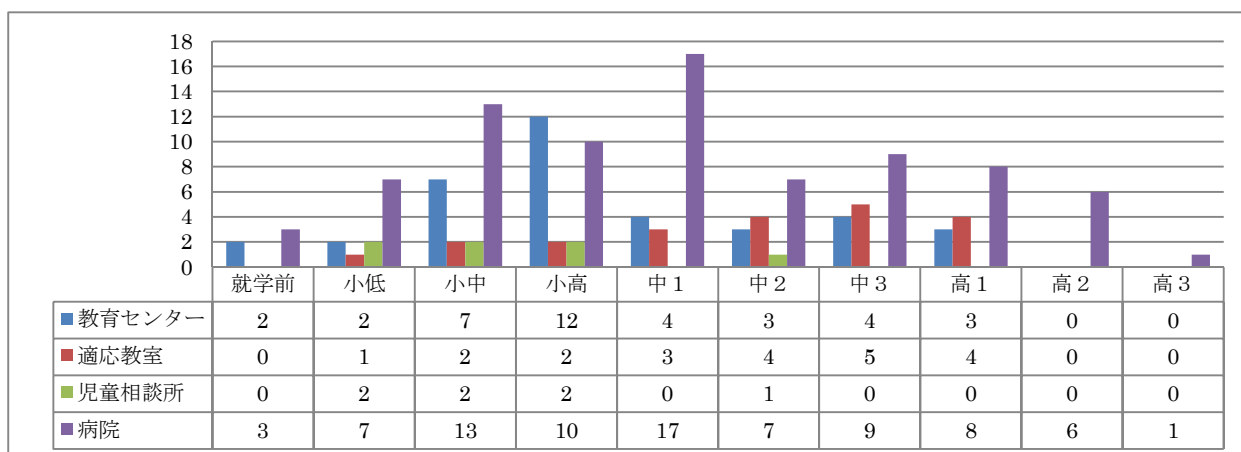


図9 来所する以前の他機関にかかわった時期

かかわっている相談機関は、病院が最も多く、次いで教育センター、適応指導教室となっている。学校種ごとにかかわった機関と時期を見ていくと(図9)、小学校中学年から中学1年で、病院とのかかわりが多くなっている。思春期の入り口の年齢から、不登校以外の様々な問題や症状が出現することもあり、病院につながるのかもしれない。

(4) 当センターにおける他機関との連携

当センターにおいて他機関と連携を取っているのは、約3割である(図10)。

当センターが主体となって連携を取っているのは約3割だが、図2にあるように、不登校のケースのうち約9割の保護者が学校との連携を取っている。よって、当センターの役割は、保護者と学校との関係を継続していけるよう、支援していくことであると考えられる。

図10のように、当センターで他機関と連携を取っていないケースは約7割である。その7割について、「来所する以前の他機関での相談歴」の有無について調べた。すると、86ケースが、相談歴がなく、現在も当センターの相談だけであることが分かった。これは、不登校のケースの約3割になる。このようなケースについては、信頼関係を築き、今後必要に応じて当センター以外の機関とも連携を取っていけるよう支援していくことが必要になるだろう。

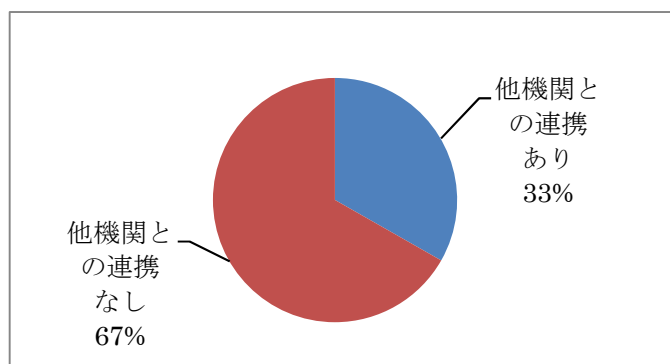


図10 他機関との連携の有無

さらに、他機関との連携について、校種別の傾向を見た(図11)。割合を調べると、小学校、中学校においては、若干ではあるが「連携あり」の割合が多いが、高校、一般では、「連携なし」の割合が多くなっている。校種が上がるに連れて、連携が取りにくい状況が見えてくる。高等学校との連携の取り方が課題と言える。

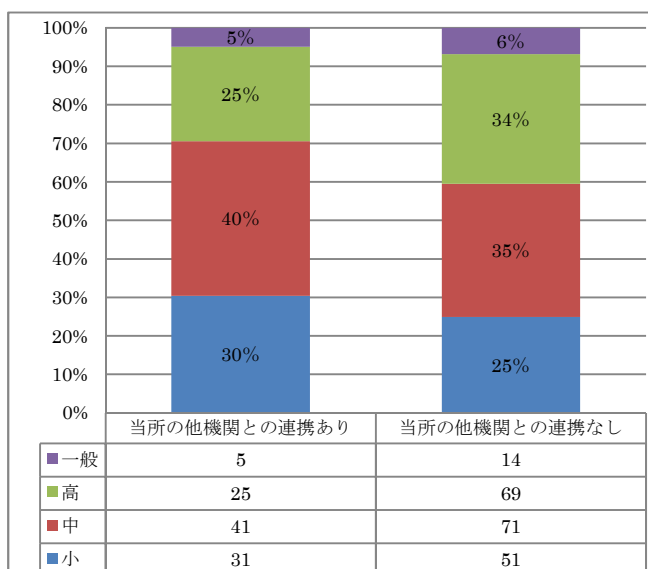


図 11 他機関との連携（校種別）

(5) 考察

- ① 学校と保護者が、何らかの形で連携を持っていることは、不登校支援において重要である。連携が取れているところはそれを継続していけるように、取れていないところは、連携を取らない背景に配慮しながら、当センターが学校と家庭のつなぎ役をしていけると良い。
- ② 小学校の中学年から始まった不登校は、配慮が必要である。特に学校と家庭の連携が取れていないケースでは、不登校が長期化したり繰り返したりすることがないように、当センターが学校と連携を取ったり、必要に応じて病院、適応指導教室などの外部機関と連携を取ったりしていけると良い。
- ③ 中学校では、不登校の問題だけでなく、思春期の様々な問題が出現することがある。状態に応じ、病院などの関係機関との連携も必要になることがある。
- ④ 校種が上がるに連れて連携が難しくなる傾向がある。特に、高等学校では、卒業後の進路やフォローも視野に入れ、学校や関係機関と連携を取っていけると良い。